

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【公表番号】特表2010-512561(P2010-512561A)

【公表日】平成22年4月22日(2010.4.22)

【年通号数】公開・登録公報2010-016

【出願番号】特願2009-516737(P2009-516737)

【国際特許分類】

G 0 6 F 17/21 (2006.01)

G 0 6 F 17/22 (2006.01)

G 1 0 L 15/22 (2006.01)

G 1 0 L 15/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/21 5 5 0 Z

G 0 6 F 17/22 5 0 3

G 1 0 L 15/22 4 5 3

G 1 0 L 15/00 2 0 0 B

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月18日(2010.6.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 第 1 の概念を符号化している第 1 の特徴を有する第 1 の符号を含む文書を特定するステップであって、前記第 1 の符号は第 1 のコード及び第 1 のデータに関連付けられていることを特徴とするステップと、

(B) 前記第 1 のコードを描出することなく前記第 1 の特徴に基づいた視覚的特徴をもたせるように前記第 1 のデータを描出するステップと、

(C) 前記描出が正確なものであるか否かの第 1 の指標をユーザから受領するステップと、

(D) 前記ユーザから受領した前記第 1 の指標に基づき、前記第 1 のデータが前記第 1 の概念を表すものであるか否かを示す前記第 1 の符号の検証ステータスを特定するステップであって、

(D) (1) 前記描出の前記第 1 の指標が正確であることを示すならば、前記第 1 の符号が正確であることを示す該第 1 の符号の検証ステータスを特定するステップと、

(D) (2) さもなければ、前記第 1 の符号は不正確であることを示す該第 1 の符号の検証ステータスを特定するステップと、を含むステップと、

(E) 前記第 1 の符号の前記検証ステータスが該第 1 の符号が不正確であることを示すなら、該第 1 の符号の前記第 1 の特徴を修正するステップと、を含んでいることを特徴とするコンピュータ利用方法。

【請求項 2】

第 1 の特徴は、第 1 の符号と第 2 の符号との間に特定の関係を含み、ステップ (E) は該第 1 の符号と該第 2 の符号との間の該特定の関係を修正することを含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

第 2 の符号は第 1 の符号を含み、第 1 の特徴は該第 2 の符号内に該第 1 の符号を含み、ステップ (E) は、該第 2 の符号から該第 1 の符号を除去することを特徴とする請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】

第 1 の符号と第 2 の符号はばらばらであり、第 1 の特徴は文書内の第 1 の特徴識別子によって表されていることを特徴とする請求項 2 記載の方法。

【請求項 5】

ステップ (E) は特定の関係の切断を含んでいることを特徴とする請求項 2 記載の方法。

【請求項 6】

第 2 の符号は第 2 のコードおよび第 2 のデータに関連付けられ、ステップ (B) は、前記第 2 のデータに基づいて前記第 1 のデータが視覚的特徴を有するように描出することを含んでいることを特徴とする請求項 2 記載の方法。

【請求項 7】

ステップ (B) は第 2 のコードの描出を含まないことを特徴とする請求項 6 記載の方法。

【請求項 8】

(F) ユーザから受領した第 1 の指標に基づいて、第 2 の符号の検証ステータスを特定するステップをさらに含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 9】

(G) 第 2 の符号の検証ステータスは第 1 の符号の検証ステータスに基づいて特定されたことを示す記録を文書内に保存するステップをさらに含んでいることを特徴とする請求項 8 記載の方法。

【請求項 10】

ステップ (C) は描出が正確であるか否かを示す第 1 の入力をユーザから受領することを含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 11】

ステップ (C) は第 1 のデータの描出に応答したユーザによる入力が存在しないことを特定することを含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 12】

第 2 の符号は第 1 の符号と第 3 の符号とを含んでおり、該第 3 の符号は第 3 のコードおよび第 3 のデータと関連しており、ステップ (B) は該第 3 のコードも該第 3 のデータも含んでいないことを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 13】

第 1 のデータは第 1 のテキストを含み、ステップ (D) は第 1 の符号の検証ステータスの特定を含んでおり、該第 1 の符号の該検証ステータスは前記第 1 のテキストが第 1 の概念を記述するか否かを示すことを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 14】

ステップ (C) は第 1 のデータの検証ステータスを示すユーザによる第 2 の指標の受領をさらに含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 15】

(F) 第 1 の符号の検証ステータスの記録を文書内に保存するステップをさらに含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 16】

ステップ (D) は第 1 のデータが第 1 の特徴を有した概念を表すか否かを確認するステップを含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 17】

コンピュータ読取媒体に利用可能な形態で記録されているコンピュータ実行可能インストラクションを含んだコンピュータプログラム製品であって、該インストラクションは、第 1 の概念をコード化する第 1 の特徴を有し、第 1 のコードおよび第 1 のデータと関連する第 1 の符号を含む文書を特定させ、
前記第 1 のコードを描出させずに、前記第 1 の特徴に基づいた視覚的特徴を第 1 のデータ

に持たせ、
前記描出が正確であるか否かの第 1 の指標をユーザから受領させ、
該ユーザから受領した前記第 1 の指標に基づいて、前記第 1 のデータが前記第 1 の概念を
表しているか否かを示す前記第 1 の符号の検証ステータスを特定させるインストラクシ
ョンを含んでおり、
該特定させるインストラクションは、
前記第 1 の指標が前記描出が正確であることを示すならば、前記第 1 の符号が正確である
ことを示す該第 1 の符号の検証ステータスを特定させ、
さもなければ前記第 1 の符号が不正確であることを示す該第 1 の符号の検証ステータスを
特定させ、
前記第 1 の符号の前記検証ステータスが該第 1 の符号が不正確であることを示すならば、
該第 1 の符号の前記第 1 の特徴を修正させるインストラクションを含んでいることを特徴
とするコンピュータプログラム製品。

【請求項 18】

第 1 の特徴は、第 1 の符号と第 2 の符号との間に特定の関係を含んでおり、修正するイン
ストラクションは該第 1 の符号と該第 2 の符号との間の該関係を修正するインストラクシ
ョンを含んでいることを特徴とする請求項 17 記載の製品。

【請求項 19】

コンピュータ実行可能インストラクションは、ユーザから受領した第 1 の指標に基づいて
第 2 の符号の検証ステータスを特定させるインストラクションをさらに含んでいることを
特徴とする請求項 17 記載の製品。

【請求項 20】

コンピュータ実行可能インストラクションは、第 1 の符号の検証ステータスの記録を文書
に保存させるインストラクションをさらに含んでいることを特徴とする請求項 17 記載の
製品。

【請求項 21】

視覚的特徴はテキストフォーマット化の特徴を含んでいることを特徴とする請求項 1 記載
の方法。

【請求項 22】

視覚的特徴はボールド体を含んでいることを特徴とする請求項 21 記載の方法。

【請求項 23】

第 1 のデータは第 1 のテキストを含んでいることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 24】

(F) ステップ (A) に先立って、音声を表すオーディオストリームを認識し、第 1 のテ
キストを生成するために自動音声認識装置を利用するステップをさらに含んでいることを
特徴とする請求項 23 記載の方法。

【請求項 25】

文書は第 1 の符号内に含まれていない第 2 のテキストをさらに含んでいることを特徴とす
る請求項 23 記載の方法。

【請求項 26】

第 1 の指標は第 1 のテキストに対する修正を特定する入力を含んでいることを特徴とする
請求項 23 記載の方法。

【請求項 27】

第 1 の指標は第 1 のテキストのテキストフォーマット化特徴に対する修正を特定する入力
を含んでいることを特徴とする請求項 26 記載の方法。

【請求項 28】

ステップ (F) は第 1 の符号への記録の保存を含んでいることを特徴とする請求項 15 記
載の方法。

【請求項 29】

視覚的特徴はテキストフォーマット化特徴を含んでいることを特徴とする請求項 17 記載

のコンピュータプログラム製品。

【請求項 30】

ステップ(F)は第1のテキストに基づいた第1の符号の自動的な発生を含んでいることを特徴とする請求項24記載の方法。

【請求項 31】

第1のデータは第1のテキストを含み、コンピュータ実行可能インストラクションは、音声を表すオーディオストリームを認識して、前記第1のテキストを生成するための自動音声認識装置を使用し、前記第1のテキストに基づいて第1の符号を自動的に発生させるインストラクションをさらに含んでいることを特徴とする請求項17記載のコンピュータプログラム製品。